



今年の研究発表会が高松です

第 15 回研究発表会は、11 月 17 日(水)から 3 日間、高松市で開催されます。主要会場は、JR 高松駅に隣接するサンポートホール高松で、本年 4 月にオープンしたばかりの新しい施設です。

高松開催のきっかけの一つに、豊島問題に関する対策の大きな進展があり、本研究発表会では、香川県のご協力を得て豊島・直島の見学会を企画しました。また特別シンポジウム「廃棄物問題とどう取り組むか～技術・経済・こころの視点から～」とともに、年会委員会による企画シンポジウム「豊島問題から何を学ぶか - 循環型社会づくりに向けて - 」も行われます。

廃棄物学会では、全国主要地域に支部が設置されていますが、本研究発表会は中国・四国支部が中心になって運営する初めての年会です。多くの方のご協力、ご支援のもと、開催に向けての準備を進めているところです。

研究発表会を直前に控え、実行委員会からのいくつかのお知らせを以下に記します。

1. 口頭発表とポスター発表について

本年度の研究発表会では、334 編の口頭発表と 173 編のポスター発表(国際セッションの 30 編を含む)が行われます。口頭発表において、プロジェクターの利用を希望する報告者は、11 月 5 日(金)までに、パワーポイントで作成したファイルを学会事務局まで送付していただくことになっております。

ポスター発表者においては、11 月 17 日(水) 11 時までに、ポスターの貼り付けを行い、できる限り 19 日の 10 時頃まで掲示下さい。また、掲示時間経過後は、直ちに発表者によるポスターの撤収をお願いします。プログラムにおいて、「ポスター-1」とある発表に関しては“17 日(水)11:30～13:00”が、「ポスター-2」に関しては“18 日(木)11:00～12:30”がそれぞれ会場での発表時間になっています。なお、優秀ポスター発表者は 18 日の懇親会の会場で表彰を行います。

2. 講演論文集について

講演論文集には、CD-ROM 版と印刷版があります。印刷版は事前申込数(10 月 15 日締切)をもとに印刷部数を決定していますので、当日の印刷版購入のお申し出にはお応えできない場合もあります。その際にご容赦下さい。

3. シンポジウムについて

特別シンポジウム「廃棄物問題とどう取り組むか～技術・経済・こころの視点から～」は 18 日(木)の 13:15 よりサンポートホール高松の大ホール(3F)で行われます。年会委員会企画シンポジウム「豊島問題から何を学ぶか - 循環型社会づくりに向けて - 」は 17 日(水)16:30 より、香川県県民ホール(サンポートホール高松・JR 高松駅から徒歩 10 分)で開催されます。2 つのシンポジウムの会場が異なりますのでご注意下さい。



4. 懇親会について

- ・日 時：11月18日(木)18:30～20:30
- ・場 所：全日空ホテルクレメント高松(飛天の間)
- ・参加費：正会員、公益・賛助会員 6,000 円
学生会員・登録団体市民会員 3,000 円
参加費は、当日会場にてお支払いください。
- ・申込方法：2 日目(18 日)午前より受付いたします。
研究発表会参加証を懇親会受付にお出しください。

5. 見学会について

豊島・直島の豊島廃棄物等処理事業と直島のエコタウン事業の施設見学を企画しました。経済優先社会の「ごみ」問題を世に提起した豊島不法投棄事件の処分地と処理施設、住民・事業者・行政が一体となって進めるエコタウン施設を見学していただき、循環型社会形成のために私たちが何をなすべきかを一緒に考えたいと思います。

6. 会場へのアクセスについて

今年は台風の当り年で、各地で大きな被害をもたらしています。会場への主要なアクセスの一つは JR 瀬戸大橋線ですが、強風時には運休となることが予想されます。一方、宇野（岡山） - 高松間では、1 時間に数便のスケジュールでフェリーが運航されています。

埋立処分研究部会小集会

11月19日(金)13:30-15:30 第1会場

に変更になりました

JR 瀬戸大橋線運休時だけではなく、時間の余裕のある方は、約1時間（岡山 - 高松：約2時間、宇野でのJR線との接続をご確認下さい）の瀬戸内海の船旅を楽しまれたら如何でしょうか。大会会場への所要時間は以下の通りです。

- JR 高松駅から徒歩 3 分
- ことでん高松築港駅から徒歩 5 分
- 高松港から徒歩 2 分
- 高松空港からことでん空港連絡特急バス
高松駅行き乗車 40 分

7. 昼食について

実行委員会では、弁当等の昼食の準備は、特にしてありません。会場であるサンポートホール高松のレストランをはじめとして、JR 高松駅周辺には、讃岐うどんの美味しいお店やお食事処がたくさんあります。どうぞ、四国の海の幸、山の幸をご賞味下さい。

8. 緊急時の対応について

緊急時における学会開催等の対応について、学会の臨時 HP (<http://jswme.gr.jp/info/>、11 月 10 日(水)～19 日(金)のみ)でお知らせします。このページは、携帯電話の web 閲覧機能に対応しています。一部の機種では表示できない場合もありますので、あらかじめご留意下さい。

また、大会本部への緊急連絡先は、
(「090 - 8054 - 4357」11月15日(月)～11月19日(金)
のみ)となっています。

それでは、高松にてお待ちしております。

(年会実行委員会統括幹事 広島大学 今岡 務)

[illegible]

東北支部

平成16年8月3日

平成16年度総会および講演会 開催報告

平成 16 年 8 月 3 日（火）東北大学工学部青葉記念会館にて、「平成 16 年度廃棄物学会東北支部総会・講演会」が開催された。

総会では、初めに、溝口忠昭支部長（東北大学）より昨年発足した支部の一年を通しての活動・今後の抱負が述べられた。続いて、平成 15 年度における事業報告と会計報告、平成 16 年度における事業計画案と予算案の審議を行い、いずれの議案も満場一致で承認された。

総会終了後の講演会は41名の参加者を得て開催された。はじめに横山俊彦氏(NECトーキン(株))より、「化学物質規制に関する海外(特に欧州)動向と日本企業へのインパクト」、続いて三好信俊氏(東北大学)より、「多様化する環境政策手法と持続可能な企業経営」と題し、ご講演いただいた。各講師からは、貴重な経験談や有用な情報が参加者に提示され、今後の学会活動、環境問題に対する地域や企業のあり方を改めて考える機会となった。

講演会終了後、懇親会が行われた。講演会の講師を交えて、多数の正会員・学生会員が参加し、会員相互の近況報告や、情報交換、今後の学会活動のあり方に対する活発な意見交換がなされ、非常に盛会なものとなった。

(東北支部 吉岡敏明 記)

平成16年9月17日

東海・北陸支部

「エコハウス・小牧見学会・体験講座」開催報告

平成16年9月17日（金）エコハウス・小牧（小牧市リサイクルプラザ）において、「東海・北陸支部 見学会・体験講座」が、約40名の参加を得て開催された。

はじめに、伊藤秀章支部長（名古屋大学）の挨拶があり、続いてエコハウス・小牧の横地所長補佐より、「エコハウス運営に関する説明と懇談」と題して、エコハウスの概要、運転状況、運営の在り方、現状の問題点等について詳細な説明が行われた。

このエコハウス・小牧は、「廃棄物循環型社会」の実現に向けた総合的なごみの減量化・資源化を推進するための拠点として整備され、飲料缶・ペットボトル・空きびんの資源再生のための中間処理を行う「リサイクルハウス（処理棟）」と、ごみに関する情報の発信、リサイクルが体験できる「プラザハウス（啓発棟）」によって構成されている。

エコハウス・小牧は今年4月に供用開始され、処理能力は12.6t/日であり、現在の稼働状況は約70%であった。また、プラザハウスでは、体験教室（サンドブラスト、トンボ玉、紙すき）を開催しており、当日は参

加者全員にて牛乳パックを使用した紙すきを体験した。さらに、小牧・岩倉衛生組合環境センター（焼却施設）の灰溶融施設を見学し、盛況の内に見学会・体験講座を終えることができた。

行政におけるリサイクルシステム等の在り方、難しさを認識する見学会・体験講座となった。

（東海・北陸支部 戸谷 満 記）



▲ 見学会の様子

平成16年10月8日

関西支部

「超臨界・亜臨界技術による廃棄物の処理と資源化」開催報告

平成16年10月8日（金）に大阪市立大学文化交流センターにおいて、関西支部主催による技術セミナー「超臨界・亜臨界技術による廃棄物の処理と資源化」が、80名の参加を得て開催された。

まず吉田弘之氏（大阪府立大学）からは、水を反応場に利用した超臨界、亜臨界技術による有機性廃棄物からの資源・エネルギー回収について、COEプログラムにおける余剰汚泥や魚アラ資源化の取り組み事例も交えながら講演があった。福里隆一氏（SCF Techno-Link）は、超臨界水を利用した廃プラスチックなどのケミカルリサイクル実用化事例を紹介し、一般の有機性廃棄物のケミカルリサイクルの困難性についても言及した。立石正和氏（三菱重工業㈱）は、自社保有の水熱分解技術による廃PCB処理プラントの概要を紹介し、農薬の処理への応用も可能であることを述べた。鈴木明氏（(独)産業技術総合研究所）は、超臨界技術の特長や技術的課題など総合的な解説を行った。超臨界技術は、各種の有機

溶媒の代替として水と二酸化炭素を利用できる低環境負荷技術であり、今後さらなる高温高圧領域での適用により、反応の選択性を高める制御も可能であるとの展望についても述べた。

（関西支部 西谷隆司 記）



▲ セミナーの様子

【お知らせ】

廃棄物学会共催

日本学術会議エネルギー・資源工学研究連絡委員会主催
第3回リサイクル工学シンポジウム

「リサイクル工学教育の現状・展望

—大学における教育の現状と社会の期待—」

- シンポジウム内容 -

第1部：大学におけるリサイクル工学教育の現状

「東北大学環境科学研究科におけるリサイクル工学教育」

長坂徹也（東北大学）

「工学の枠を超えて取り組む、大学院共通講義；廃棄物学特別講義の取組」田中信壽（北海道大学）

「福岡大学資源循環・環境工学専攻における総合演習の取り組みについて」市川新（福岡大学）

「環境システム学の体系化とリサイクル工学教育」

井村秀文（名古屋大学）

「JABEE 認定と環境・リサイクル工学教育」

大和田秀二（早稲田大学）

第2部：リサイクル工学教育に対する社会の期待

「工学分野の枠を超えたリサイクル教育の提言（仮）」

植田和弘（京都大学）

「経団連（産業界）からのリサイクル工学教育への要望と期待（仮）」山口耕二（株NEC）

「日本鉄鋼協会 環境・エネルギー部会設立について（仮）」長坂徹也、丸山公一（東北大学）、秋山友宏（北海道大学）

「資源循環の現場から見たリサイクル工学教育への期待」馬場研二（東京エコリサイクル株）

第3部：討論「リサイクル工学教育の在り方、進め方」

開催概要

開催日時：平成16年11月30日（火）13:30～18:00

開催場所：日本学術会議講堂（東京都港区）

参加費：無料（資料代2,000円）

問合せ：北海道大学大学院工学研究科廃棄物資源工学講座

TEL & FAX：011-706-6828

会員状況	
	H16.9.30現在 ()内は、H16.4.1以降の増減
正会員	3,563 (34)
学生会員	300 (53)
外国人会員 (DM)	25 (2)
登録団体市民会員	3 (0)
公益会員	113 (1)
賛助会員	179 (-5)
計	4,217 (95)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.83

平成16年11月1日発行

廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前ビル5F

Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492

R100

印刷媒体は、古紙配合率100%再生紙を使用しています

http://www.jswme.gr.jp

JSWME Newsletter No.50 (Oct)

発行のお知らせ

下記内容の英文ニュースレター50号が発行されました。

JSWME NEWSLETTER は41号より電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会ホームページ（<http://www.jswme.gr.jp>）から入手できます。

主な内容

- ・廃棄物技術動向：埋立地ルネッサンス - 日本の挑戦 -
- ・自治体事業紹介：横浜市 G30 プラン
- ・廃棄物分野の ODA：ピエンチャン（ラオス）のごみ処理改善

Contents of No.50

- ・Dear Waste Management Experts
- ・Landfill Renaissance: Japan's Challenge
- ・Yokohama G30 Plan
- ・Japan's ODA on SWM
- Solid Waste Management Improvement in Vientiane, Laos
- ・Contents of Journal of the JSWME, Vol.15, No.5
- ・Cartoon by High Moon: "Ascetic training toward a sustainable society"

学会事務局は、研究発表会開催のため、

11月16日（火）～11月19日（金）

は不在となります。

事務局だより

これまで、ホームページのお手伝いをしておりましてご縁で、広報委員会の新規メンバーとなりました。よろしく願います。

かつてのOA化は、ペーパーレスの言葉とは裏腹に、紙の大量消費を招きました。インターネット・電子メールの普及初期には、全てのメールをプリントアウトするような状況も見られましたが、現在では、いちいちプリントアウトしてられないほど、大量のメールがやりとりされています。インターネット社会は、流通する情報量に比較して、圧倒的に省資源です。しかし、そもそも多量の情報が必要かという議論はあると思います。ネット上には、根拠のない噂や、誤った情報があるのも事実です。これから問われていくのは、インターネット情報のS/N比ではないでしょうか。雑多なノイズに埋もれず、有益なシグナルを発信し続けることが、学会のホームページにも求められていると考えています。

学会サーバの残余容量を気にしつつ、ホームページのメンテナンスをしております。幸いにして、まだまだ容量拡張の余地はありそうです。有益な情報で、サーバ容量を満たしていけるよう、学会ニュース共々、ホームページへのご協力をよろしくお願い申し上げます。

（松本礼史 記）

次号（学会ニュース No.84）は1月1日発行予定です。